

オンライン開催



多文化共生の担い手・ 実践者全国会議2026

JANIC多文化共生ワーキンググループ*は、非営利・民間の立場から政府や自治体等と連携し、多文化共生社会の形成を目指すため、第2回となる「多文化共生の担い手・実践者全国会議」を開催いたします。300名以上が参加した昨年に続き、今回は、そのネットワークをさらに広げ、各地の実践や最新の施策を共有するとともに、大きく変化する外国人政策を見据え、現場の声を政府・関係機関へ届けながら、行政、NGO/NPO、企業など多様な主体による連携と、持続可能な多文化共生社会の実現に向けたアクションをとともに考えます。

多文化共生に関心のある皆さまのご参加をお待ちしています！

*JANIC多文化共生ワーキンググループとは
コロナ禍以降、国内の外国人支援に取り組む国際協力NGOが増えたことや、政府・関係団体との連携を求める声が高まったことを受け、2023年に設置されました。外務省やJICAとの対話経験を持つ国際協力NGOセンター（JANIC）が運営しています。



オンライン参加
申し込みはこちら

日時:2026年9月3日(木)10:00～16:30

・対 象：

1. 多文化共生分野で活躍したい地域の担い手（NPO、学生、社会人、自治体・国際交流協会職員）
2. 多文化共生分野で担い手を受け入れたい組織（自治体、企業、商工会議所、NPO）
3. 海外派遣を含む担い手育成スキームを持つ組織（JICA、JF、CLAIR、かめのり）
4. 外国人受入れに関連する政府省庁の担当者

・定 員：200名（先着順・お申し込み頂いた方にZOOMのURLをお送りします）

・共 催：独立行政法人国際協力機構、独立行政法人国際交流基金、
一般財団法人自治体国際化協会

・助 成：公益財団法人かめのり財団

・主 催：国際協力NGOセンター（JANIC） JANIC多文化共生ワーキンググループ
事務局（CSOネットワーク内）Mail:office@csonj.org

参加
無料

プログラム

【9月3日】多文化共生の担い手・実践者全国会議

9:30 受付開始
10:00 【開催あいさつ】 JANIC多文化共生ワーキンググループ
10:10 【オープニングセッション】 開催趣旨及び各分科会の説明
10:30 休憩・移動
10:45 【分科会】
5つのテーマで課題と今後の望ましいあり方を検討
12:15 昼食・コーヒブレイク ※コーヒブレイクは適宜各分科会にて導入
13:30 【分科会】総括・それぞれの課題に対しての提案
14:15 休憩・移動
14:30 【全体会】分科会からの報告（@10分×5）
15:30 【クロージングセッション】
「持続可能な地域のあり方と連携・協働による多文化共生の推進」
分科会報告をふまえ各省庁からコメント
16:30 終了

分科会

- (1) つながりが地域を変えるー外国人住民と一緒に地域社会をつくる（進行＝桃山学院大学・オチャンテ 村井 ロサ メルセデス）
 - ・自分たちでひらく、草の根の地域交流と相互理解（アディアババ・エチオピア協会・アベベ・サレシラシェ）
 - ・多文化団地での住民の取り組みと課題（埼玉県川口市芝園団地自治会・大島隆）
 - ・研究者となった私の経験から考える『つながり』と子ども支援（桃山学院大学オチャンテ 村井 ロサ メルセデス）
- (2) 国際協力の経験を活かした地方で取り組み（進行＝シャンティボランティア会・山本英里）
 - ・石川県輪島市における外国人世帯へのアセスメントと復興の担い手育成（一般社団法人多文化人材活躍支援センター・山路健造）
 - ・国際協力NGOの視点から「いのち・ことば・ぶんか」をキーワードに山形で行う 多文化共生の取り組み（認定NPO法人IVY・西上紀江子）
 - ・JICA海外協力隊参加経験者の社会還元の取り組み（国際協力機構・礒貝白日）
- (3) 日本語や社会規範を学ぶプログラムの導入に向けて（進行＝ダイバーシティ研究所・田村太郎）
 - ・就労のための日本語教育の取り組みについて～川崎市での事例から～（日本国際協力センター・齋藤 牧）
 - ・地域住民である外国人との包摂社会の構築に向けて（東京商工会議所・山内清行）
 - ・外国人の暮らしを支える環境のあり方について（NPO法人ともくら・アジズ・アフメッド）
 - ・来日前の日本語教育支援のための取り組み（国際交流基金・河野明子）
- (4) 外国ルーツの子どもたちの未来を考える（進行＝アイキャン・福田浩之）
 - ・外国人学校の現状とこれからのあり方について（こどもの夢応援ネットワーク・金光敏）
 - ・夜間中学校における外国ルーツの子ども達の進路・生活サポート（泉佐野市立佐野中学校夜間学級・竹田隆）
 - ・定時制高校における外国ルーツの子どもへのキャリア支援（多文化LIFE・入倉眞佐子）
 - ・彦根市における外国ルーツの子どもたちに向けた活動から（自治体国際化協会・岡本ジュリア）
- (5) サステナブルな団体運営（進行＝難民支援協会・石川えり）
 - ・休眠預金等を活用した多文化共生分野へのアプローチ（日本国際交流センター・李惠珍）
 - ・人材育成と事業助成を活用した多文化共生ネットワークの形成（かめのり財団・河合耕作）
 - ・地域での活動における多文化共生活動の視点（公益財団法人長野県みらい基金・高橋潤）